

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全職員が理念を意識して認知症への理解が深まるように、ケアカンファレンスや社内研修等で学ぶ努力をしている。いつでも職員や外部の方の目に触れやすい所に掲げられ、唱和している。	理念は地域での必要性が掲げられていました。春の全体研修が計画され、理念について職員はさらに理解を深め、利用者や地域の方にわかりやすいものになっていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣組に参加して、今までに隣組長を務めさせて頂き、区費の集金、回覧板配りなどで、近所の方と顔なじみの関係を築けている。ホームの行事にも地域の方の参加を呼び掛けていたが、コロナ禍の為、文書で活動報告をしている。	地域で過ごされたことを大切に考え、隣組に参加し、地域の活動や回覧板等でつながりを持っていました。地域の行事にも参加されていましたが、現在はコロナ禍の為「のぞみの家便り」の配布で報告していました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者への関わりで培ったことを活かし、運営推進会議で地域の方々へ出来る支援をしていきたいとお話させて頂いている。市の見守り事業所として登録し、行方不明者の発見に協力している。認知症指定を受けてあり、自主事業での緊急の一時宿泊の受け入れ態勢が整っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	今年度も6回の運営推進協議会を予定していたが、コロナ禍の為、のぞみ便り・入居情報・ヒヤリハット・行事の取り組みを文書で報告し、サービスの向上に活かしている。	運営会議は定期的開催される計画になっていましたがコロナ禍のため文書での報告でした。報告書には、入退去状況、事故報告、行事等記載され問題点にも対応し、サービスの向上に活かしていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	今期はコロナ禍の影響で、例年開催された市連絡協議会やグループホーム部会の開催が中止されていたが、メールでのアンケート調査には、随時対応している。	地域、市町村との連携が行われ、必要なサービスの提供に心がけていましたが。現在はコロナ禍の為、安全の範囲内で検討されていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護のための身体拘束は行っていないが、玄関は施設前の道路の交通量も激しいため施錠している。中庭、畑は自由に出入りが出来るよう開放している。また、身体拘束適正化委員会を設けWEB研修に参加し、職員に周知している。	身体拘束しないことを徹底し、職員研修もされました。やむを得ない身体拘束には、家族にお知らせし、職員だけで解決するのではなく医療や地域と協力する手順が検討されていました。身体拘束適正化委員会もあり勉強会も行っていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	申し送りやケアカンファレンスで情報交換を行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、各種研修、社内研修を行い、知識を深め、利用者の尊厳を守るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書に沿って、利用者や家族の不安、疑問点を伺い、丁寧な説明を行っている。締結時、解約時、改定時の説明により理解、納得を得ている。また事業所内で閲覧できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見、苦情が寄せられた場合は、所内会議を開催し、検討・改善をして、入居者ご家族、運営推進会議で報告している。利用者の表出できない思いを入居者の立場になって把握し、ケアに反映させている。重要事項に市町村相談窓口の連絡先を掲載している	地域や家族の要望から作られたホームの為に利用者、家族、地域の意見を大切にして、支援や運営に反映していました。今ケアに何が必要かを支援の中から探り、市町村と連携して改善されていました。意見箱も設置されており家族からの意見が反映されていました	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	コロナ禍の影響で全体会議の機会が減少しているため、日々の申し送り職員が集まり、意見など発言する機会を設け、忌憚なく意見の言える雰囲気作りに努めている。	職員との全体会議の機会は、減少しましたが、日々の支援記録、意見、改善についてはシステム化され、管理者や職員が常に把握でき、対応されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設できる職員ロッカーを完備し、休憩時間確保の徹底と休憩室として間仕切りができる和室でゆっくり休めるよう環境を整えている。また、現在食事は個別で摂るよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の向上を図るため計画的に研修や勉強の機会が設けられている。外部研修には個々のレベルに応じた研修に交代で出ている。常勤、非常勤に関わらず積極的に研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市のグループホーム部会に加入し、積極的に交流の場を設けている。ネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通して、サービスの質の向上や職員の資質向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の情報収集をもとに、本人のアセスメントを行い、困っている事、不安な事、求めている事等ゆっくりお話させていただいて受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居者の家族にも困っている事、不安な事、求めている事等ゆっくりお話させていただいて受け止める努力をしている。また職員間で情報を共有しながら、サービスの向上に繋げていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者の暮らしぶり全体を把握した上で、必要としている支援を見極めた対応に努めている。また、状態に応じた他施設の提案もやっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は本人が出来る事を見極め、職員と共に料理、畑仕事や家事などを職員と一緒にやる事で支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々生活の出来事や困りごと等、本人との関わりをこまめに家族に伝達し、家族にしか出来ないことを相談しながら、共に支援していくことが出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染症拡大防止対策で面会・外出に制限があるため、家族にはお便りで情報を伝え、電話対応・WEB面会で関係が途切れないよう対応している。	家族アンケートにも面会がコロナ禍の為できていないとありましたが、日常の生活状況は写真等活用した「おたより」が家族に送られていました。またWEB面会を行って工夫をしていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士や入居者と職員が信頼し合っ助け合いながら生活できる様に、小さなトラブルや感情のすれ違いに早期に気づき、介入と調整を行って安心して生活できるように、さりげなく橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、野菜やタオル等寄付して下さるご家族もあります。その際に相談されることがあれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者お一人おひとりに合った声掛けをし、思いや意向を引き出すように努めている。困難な場合はご家族や職員間で情報を共有し、できる限り思いを汲み取れるように努めている。	毎朝カンファレンスを行い個々の様子を周知して、利用者の想いを丁寧に察するようにしていました。技能実習生は、母国で家族を大切にされていて、関わるのがうまく、実習生からも学ぶことがあるとのことでした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に生活歴や生活環境、その方らしさを知るための調査に記入していただき、折に触れて入居者やご家族のお話をゆっくりと伺い、お一人おひとりのこれまでの人生の把握に努めている。介護支援専門員・医療機関からは必ず情報提供書をいただき、サービス利用の経過等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日入居者お一人おひとりのファイルに日々の様子を細かく記録し、その方の人生の歴史に合わせて、持てる力を見極めている。またケアカンファレンスで情報交換し、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者、家族、職員等で話し合い、入居者お一人おひとりの心に寄り添って目標を立て、個々の特徴を踏まえて、地域でその人らしく暮らし続けるために具体的な介護計画を作成している。月に1度は必ずモニタリングを行い、状態が変わった時にはその都度見直しをしている。	介護計画(サービス計画書)は個々に作成され、利用者、家族の意向が反映される計画になっていました。日々の生活は細かく記載され、共有されて、計画に反映されるシステムがとられていました。月1度のモニタリングも行い記載されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践、結果、気づき、工夫など毎日の様子は個別記録、温度板やKOMI場面記録に記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	共用型認知症対応型通所介護の指定を受けている自主サービスがある。在宅での生活が困難になった高齢者の緊急避難先となり、一時的に受け入れられる体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要性に応じて民生委員やボランティア、警察、消防等と協力しながら支援しているが、現在はコロナ感染予防対策の為、難しい状況にある。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療や往診が継続して受けられている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの連携が取れている。携帯電話でいつでも(夜間も)連絡が取れるようになっている。また相談できる医療機関もあり、恵まれている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、入居者の既往歴や入院までの経緯など必要な情報は全て提供している。退院時は、主治医、看護師、ご家族を交えたケアカンファレンスを行い、情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化した場合や終末期には本人や家族との十分な話し合いをし、本人の意思を尊重した医療・ケア方針決定に対する支援に努めている。医師、看護師、介護スタッフが協同して利用者の状態や家族の求めに応じて随時説明を行い、同意を得て行っている。		入居時の重要事項説明書にも記載されていましたが本人家族の意向を尊重しながら、隣接する医療法人と協力し、かかりつけ医と相談しながら看取り支援も行っていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員が救命救急の講習を受けている。定期的に心肺蘇生の練習をしたり、研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策については年に2回消防署にお願いし、避難訓練をしている。行事や運営会議でも地域や隣組に協力をお願いしている。和田区災害時の相互援助協力協定書が締結されている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全体研修やホームの研修で一人ひとりの人格を尊重し、人権意識を徹底してプライバシーの確保に努めている。外国人実習生にも人生の先輩として尊重することを伝えている。	地域や家族の要望から立ち上げた施設であり、利用者の生い立ちを大切にしています。挨拶をするときは立ち止まり、目の表情を読み取る関わりを心がけていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	衣類選択や毎日の献立を相談し、食べたい物を一緒に作るなど、日常生活の中で入居者が要望や選択を出来るよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人おひとりの個別性を尊重して大まかな予定はあるが、それに拘らず、その日の体調や気分などを見ながら柔軟に対応している。寒い朝ゆっくり寝ていたい人には朝食は起きた時に用意し、毎日入浴したい人には入浴していただくなど、日々お一人おひとりのペースや希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分の好きな服と一緒に選んで、季節に合った洋服を着ていただいている。また身だしなみの支援では、鏡の前で声掛けしながら整髪をして頂いたり、散髪では本人が好む髪型になるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	天気の良い日にはテラスでお茶を飲んでいただいている。季節ごとの旬な食材を豊富に取り入れ、利用者と一緒にメニューを決めたり、食事作りを一緒に行っている。また昔作ったおやつや料理を教えて頂きながら楽しく一緒に作っている。	ホーム内には、野菜作り等を行い体験することで食の楽しみを実感していました。行事食や、昔懐かしいおやつ作りを皆で行い楽しまれていました。利用者のできること等役割があり、必要とされていることを実感できる支援がされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の栄養士がバランスを考え、毎日の使用食材が決められている。また献立メニューを記録し、栄養士に献立を評価してもらい、それを元に見直し献立作りに活かしている。お一人おひとりの栄養バランスや摂取状況、水分量を全職員が記録して、習慣、必要に応じた支援をしている。また水分のバリエーションを工夫し、いつでもこまめな水分摂取が行えるよう備えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きや義歯のケアを誘導している。その際、利用者の自立度に応じて、見守り、介助を行っている。必要に応じて歯科訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンやサインを把握してさりげない行動でトイレ誘導や見守りなどを行い支援している。失禁時の更衣、交換はトイレ誘導を行ったり、オムツ交換では居室のドアを閉め、本人の羞恥心に配慮しながら行っている。毎日の申し送りやカンファレンスで検討しながら、自立を目指している。	排泄支援は本人の自尊心を尊重されていました。毎日の記録等活用して、必要な声掛けを心がけていました。自立排泄をできるだけ促すことを目標にされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜をたくさん使った料理、繊維質を摂れる素材を取り入れ、水分摂取に気を配り、出来る限りの体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴はいつでもでき、自分の生活スタイルに対応している。週2回は全員が入浴できるように実践しているが、入浴が嫌いな方にはスタッフで知恵を出し合って対応の工夫をしている。	週2回以上の入浴は本人の希望に沿って行われていました。利用者が現在女性のため同性介護もできていました。やむを得ない場合は本人の確認をとって行っているとのことでした。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お一人おひとりの睡眠パターン、生活リズムを把握し、日中は活動的に、夕方は穏やかに過ごしていただき、安眠できるよう生活のリズムを整えるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が変わる都度しっかり記録をして、ケアカンファレンスで周知を図ったり、また症状の変化等も確認している。個人のファイルに薬情を管理してあり、いつも確認している。誤薬が無いように毎日、担当する職員が服薬セット、日付の記入、服薬時の薬袋の記入の確認をすることで3重のチェックで気を付けている。内服の際は喉がごっくと動くまでさりげなく確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人おひとりが少しでも出来ることを見つけ、また生活歴を活かした楽しみ、役割を持っていただき、各自の能力に応じて作業ができるようにしている。そして必要とされていると感じていただける場面を出来るだけ作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、家族や地域の人の協力は難しいが、職員が可能な限り近所へ散歩に出掛けたり、花を見に行ったりと季節の変化に気付いていただいている。またその様子を写真やお便りで家族の方にも伝えている。	利用者の希望で、外出が行われていたましたが、コロナ禍のため機会が減っていました。生活のメリハリのために安全な外出を計画されていました。家族とはリモートでいつでも繋がるようになっていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、利用者の希望や要望、必要に応じて職員が買い物の代行をしている。代金はお預かり金の中から購入し、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に本人自らの携帯電話で自由に電話をしたり、手紙のやり取りができる様に家族に相談しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ほとんどの方が共有スペースのリビングで過ごされる事が多い。不快な音やにおいがなく、季節に合わせた花や置物を飾ってゆったりと寛げる空間作りを心掛けている。家庭的な雰囲気にするように心掛けている。	コロナ禍のため個々の居室は拝見できませんでしたが、今までの生活用品を取り入れ、落ち着いた環境を提供されているとのことでした。家族アンケートでは、カーテンの交換の希望があり、直ぐ検討するとのことでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室、廊下に置いたソファ、自由に入出りできるテラスや事務所、食堂のテーブル等で気の合った人同士で話していたり、テレビを見たり、自由に過ごしていらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される時に出来るだけ今まで使っていたらっしゃった寝具、家具、時計、カレンダー、アルバム等をお持ちいただくようお願いしており、それぞれ馴染みのある自分らしい部屋で安心して過ごしている。	「地域で暮らす」ことを基本にされており、今まで使っていた生活用品を取り入れ、居心地の良い空間の提供をされているとのことでした。利用者さんは落ち着いた表情をされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は全てバリアフリーとし、要所には全て手すりが付いている。ホームのすべてがお年寄りに合わせて作られているので、非常に使いやすく安全であり、認知症のあるお年寄りが暮らしやすいようになっている。		